

ベルリン・フィル八重奏団

Philharmonic Octet Berlin

ベルリン・フィル八重奏団は、結成から80年以上という、ベルリン・フィルハーモニーのメンバーが組織する多くの室内楽アンサンブルの中で、もっとも長い歴史と伝統をもつ団体のひとつである。その歴史は、1928年、8人の楽員たちがシューベルトの八重奏曲を演奏するために集まったところから始まった。メンバーは現在に至るまで、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ奏者および世界第一級の演奏家によって構成されており、ヨーロッパをはじめ、世界の諸都市で演奏活動を行っている。当初はヨーロッパを中心に活動していたが、1954年、初めて7週間の南米ツアーを行い、この頃から始まったアメリカ合衆国、カナダへの再三にわたる演奏旅行で成功をおさめた。その後、アフリカ、韓国、中国、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、旧ソ連、イスラエルなどの各国や、ザルツブルク、ルツェルン、エディンバラ、ベルリンなどの国際音楽祭にも度々招かれ、日本には1957年の初来日以後、定期的に来日している。また1982年には、ベルリン・フィルの創立100周年記念演奏会にも参加した。レパートリーは、ウィーン古典派からロマン派の音楽を中心に幅広く、この編成ならではの編曲作品も含まれている。また1958年、ヒンデミットがこの八重奏団のために八重奏曲を作曲し、自らヴィオラを担当して歴史的初演を行ったのはじめ、ヘンツェ、ブラッハー、テーリヒェン、シュトックハウゼン、イサン・ユンなどの著名現代作曲家が、彼らのために作品を残している。

榎本大進 (第1 ヴァイオリン) Daishin Kashimoto (1st Violin)

1979年ロンドン生まれ。1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーでの1位ほか、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。2010年ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。2007年より赤穂国際音楽祭、2008年より姫路国際音楽祭の音楽監督を務める。

ロマーノ・トマシーニ (第2 ヴァイオリン) Romano Tommasini (2nd Violin)

イタリア人の両親のもと、ルクセンブルクとフランスで育った。パリで音楽教育を受け、1983年に修了。ナンシー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めた後、1989年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の一員となった。

アミハイ・グロス (ヴィオラ) Amihai Grosz (Viola)

1977年イスラエル生まれ。デイヴィッド・チェン、タベア・ツイーマン、ハイム・タウブに師事。エルサレム弦楽四重奏団の設立メンバー。2010年よりベルリン・フィル第1首席ヴィオラ奏者として入団。楽器は、ガスパーロ・ダ・サロの1570年製のヴィオラ。プライベート・コレクションより、彼に生涯を通じて貸与されている。HP: <http://www.amihaigrosz.com>

クリストフ・イゲルブリンク (チェロ) Christoph Igelbrink (Cello)

1958年、デュッセルドルフ生まれ。1986年ハンブルク国立歌劇場に入団し、1989年よりベルリン・

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

フィルのメンバーとなった。ベルリン・フィル 12 人のチェリストたち、フィルハーモニー・ピアノ三重奏団ベルリンのメンバーとしても活動している。

エスコ・ライネ (コントラバス) Esko Laine (Contrabass)

1961 年、ヘルシンキ生まれ。18 歳でフィンランド国立歌劇場のメンバーとなった。1986 年以来、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席コントラバス奏者を務め、ソリストとしても演奏している。

ヴェンツェル・フックス (クラリネット) Wenzel Fuchs (Clarinet)

オーストリアに生まれ、ペーター・シュミードルに師事。ウィーンで学んだ後、1993 年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者となった珍しい経歴の持ち主。名手ライスターの後を継ぎ、類い稀な美音で世界中の奏者、聴衆から注目を浴びている。

シュテファン・ドール (ホルン) Stefan Dohr (Horn)

エッセンとケルンで学び、フランクフルト歌劇場管弦楽団、ニース・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団のソロ・ホルン奏者を経て、1993 年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ホルン奏者となる。これまでに彼に捧げられた多くのホルン協奏曲の初演を行なっている。

HP : <http://www.StefanDohr.com>

モル・ピロン (ファゴット) Mor Biron, Fagott

1982 年イスラエル生まれ。ガッド・レーダーマン、マウリツィオ・ペッツ、クラウス・トゥーネマン、フォルカー・テスマンに師事。グスタフ・マーラー・ユーゲント管弦楽団、ソフィア王妃芸術館管弦楽団、ウェスト＝イースタン・ディヴァン管弦楽団などで活躍後、2007 年ベルリン・フィルに入団。2009 年よりアンサンブル・ベルリンのメンバー。

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

Philharmonic Octet Berlin

The Berlin Philharmonic Octet was founded more than 70 years ago and was the first chamber association of the Berliner Philharmoniker to appear in all major European cities. Since then the ensemble has continually renewed itself, drawing again and again from the Berliner Philharmoniker's membership: its chronicle features such great names and world-famous musicians as the former concertmasters Spivakovsky, Rohn and Borries; the cellists Piatigorsky, Graudan and de Machula; the clarinetist Bürkner and the bassoonist Rothensteiner.

After World War II, the ensemble expanded its already vigorous touring activities within Europe to take in other continents, visiting the USA, Canada, Africa, Japan, Korea, China, Malaysia, New Zealand and Australia. In 1978 the Philharmonic Octet gave its first concerts in Israel and the Soviet Union. It has appeared regularly at the festivals of Salzburg, Lucerne, Edinburgh and Berlin. Paul Hindemith dedicated his Octet to the ensemble in 1958 and played first viola when they gave the premiere in Berlin. Other composers who have written for them include Hans Werner Henze, Boris Blacher, Werner Thärichen, Karl Heinz Wahren, Karlheinz Stockhausen and Isang Yun.

2015/16 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.